

居眠りをしてしまったのです。上級生は酔っていたのも手伝ったのでしょうかカンカンに怒って「貴様ら上級生をナメておるんか」と一喝され「一年生全員連体責任である。すぐ皮グツをはけ!!」と命令されたのです。この夜中に皮グツをはいて何をするのかと思っていたのですが、「そのまま物干し場へ集合!!」と再度命令されました。渋々物干し場へ行ったのですがそこで「正座せよ!」との事だったのです。普通の畳とかの上でも皮グツをはいたままの正座は大変なのですが、物干し場の下は目の荒い板敷きでしたので30分も正座させられると油汗が出てきてしびれたどころか、まさに拷問のせめ苦でした。昔でいう軍隊と同じではないかとチラッと脳裏をかすめたものです。そうこうしているうちにうすら1時間位たったのでしょうか、ものすごく長く感じられましたが上級生は「公園までランニングせよ」とのまたまた命令です。足の感覚がないものですから足腰は立ちません。それでも歯をくいしばって、はったり、ころがったりしながらようやく近くの公園までたどり着きました。そこで上級生は「解散」といってサッサと帰ってしまいました。ホットしてやれやれという気持ちでしばらくそこでポッーとして休んでおったのですが暗やみに目がなれてくると今度は大変面白い事実におつかったのです。その公園は実はアベックの天国だったのですね。別に我々はテドカメにきたわけではないのですが運が良いとか悪いとか……しばらく目の保養をしながら我々一年生は帰る時にはもう鼻歌まじりでルンルン気分です。多分あとで考えたのですが上級生は「ユーモア」を解する頭の切れる人だったのでその事は承知の上で公園までランニングさせられたのだと思います。合宿所へ帰ってから一年生は文句を言うわけではなく「ニヤニヤ」していたものですから上級生も「ニヤッ」として「早く寝ろ!!」とだけ言われました。さて、その頃はしごき事件で「ワンダーフォーゲル事件」という某大学の山岳部で下級生をいじめて死なせるという事件が大々的に新聞等に報道され問題になり、我がバスケットボール部も監督以下コーチ、先輩等も反省されたのかそれ以後は鍛えさも練習の時以外は余りなくなったように思われました。また当時、大学紛争の真最中でしたので運動部は大学側に付き過激派のバリケード破りに出かけていったという武勇伝もありました。また新宿デパートでのヤクザとの乱闘事件等も若さと体力の一人倍ある悩みで、今から考えるとつかしく思い出されます。さて就職の時期になり我々の同僚は松下電器とか八幡製鉄（新日本製鉄）や日本鋼管（NKK）住友金属へ内定しており私もそちらへお世話になりたいと思っておりましたが、どういう因果かまたまた若さと体力のなせるワザか今の妻との間に子供が出来てしまいました。そこで責任をとって家業を継ぐ事に相成った訳です。帰って来た当時はまだまだ水商売と申しますかバーとか飲み屋さんは数が少く一応我が家では料亭紅梅という料理屋さんをやっておったのですが、芸者さんもあり手が少くこれからは今までのイメージを一新した明るい前向きの営業をめざしてやらなければという思いでおりました。今までは、何か水商売というと社会的に低くみられていたようです。そして飲み屋は男だけの専売特許の場で女性が飲みに出るなんて事は大変珍しく少かったのです。でも私はこれからは女性の進出は職場や家庭だけでなく遊びの面でも多いに開拓する必要がある市場（シェア）だと考えました。そこで女性でも気楽に入れる店としてパブスナック「ヤング」を開店しました。料金も安く

小 林 満 君 ボックスに協力して。

吉川吉彦君 梨木さんの卓話を楽しみに。

白崎哲男君 梨木さんの卓話最後まで聞けません。あとでゆっくり聞かせて下さい。

山 本 賢 君 梨木さんよろしく。

笹原勝治君 梨木よろしく。

河井増雄君 ①梨木さんの卓話を楽しみにして②白倉さん東京からよくおいでいただきました。

佐藤啓策君 梨木君の卓話に期待します。

石川勝行君 暖かくなったり寒くなったりの日々ですが、寒くなるたびに風邪をひく今年の春です。

外山晴一君

稲田憲治君 も一すぐホワイトデー。お返しをするのに3日間が必要です。困ったもんだ。梨木さんの卓話、楽しみに!／

山 本 充 君 梨木さんの卓話を楽しみにしています。

本間建雄美君 梨木建夫君の卓話を楽しみにしています。

米山忠俊君 三条ミュージックキャンプと選抜バンドコンサートの成功を祈って。ボックスが心配です。

ロータリー財団：

笹原勝治君 長男が高2になれそうです。

小 林 満 君 長女が高校卒業し大学に合格しました。

加 藤 実 君 お蔭で息子が大学に合格しました。一人暮らしを楽しみにしているようです。料理教室参加者一同 梁さんの料理教室の成功に感謝して。

樋口金占君 財団に協力。

内 藤 修 君 財団委員として!／

卓 話： 「わが生いたち」梨木建夫君



こんにちは!／1月8日に新会員として入会させていただきました梨木です。新しい年に皆さんと共に一緒にスタート出来る事は大変光栄に思っております。また有難い事です。どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、2月中旬頃電話で笹原委員長より「卓話」をせよ!／との連絡を受け、大変当惑いたし何を話してよいのやらと色々と考えあぐねました。「我がおい立ち」みたいな話をだいたい初めての方はお話されるとの事で私も若い頃からの過去を振り返り、苦しかった事、嬉しかった事色々通り越して来たことをかいつまんでお話をさせていただきたいと思います。大筋はまず、「バスケットボールの話」と「商売の裏話」と申しますか、内

側から見た事を率直にホンネで話せる限りさせていただきたいと思います。私がバスケットボールを始めたのは中学に入ってからですが、今は小学生の頃からミニバスケットボールなるものがあるようです。他の町では、男子も女子も義務教育で小学校、中学校と両方ともクラブがあるのですが、なぜか三条市は小学校は女子だけで中学校では男子だけという所が多く何か一貫性のない教育方針のようで大変不満が残ります。新潟市では、小学生や中学生の頃から全国大会で活躍しているのを新聞やテレビ等で知らされる度に、我が伝統ある三条高校バスケットボール部の栄光はどこへやらと深く考えさせられるものがあります。今では三高のバスケットボール部は同好会みたいな内容のクラブになってしまったようで残念でなりません。我々が三高バスケットボール部へ入部した当時は県内はもとより、北信越ブロック内でも10年間くらい無敗を誇る最強のチームでありました。また、全国大会でもインターハイや国体で優勝を重ねた黄金時代でもありました。それもその栄光を求めて、学校や後援会、監督、コーチ等が一貫となって延々と築きあげられた結果であった事は皆様方もだいたいおわかりであると思います。話が変わりますが、人生には「出会い」がいろいろあります。人との出会い、物との出会い、言葉との出会い等々……。私には「バスケットボール」との出会いが人生観をつくったと申しますか変わったと思います。私の中学生の頃は全国大会はなく、県大会までだったのですが、私が在学していた第2中学校は、市内大会、三市一郡、中越大会、県大会そして選抜大会の察先盃と完全優勝を運良くとげさせていただいたものです。あえてとげさせていただいたというのは、面白い出会いが対戦相手チームに会ったのです。それは決勝ではこと如く、加茂の若宮中と対戦する事になってしまったのです。つまり、第2中学校は優勝、若宮中は常に準優勝という結果に終わったのです。それも我々が、唯一負けているチームがあったのですが、それは新潟への遠征練習試合で寄居中を相手にコテンパに負けてしまったのです。その寄居中を準決勝でいつも若宮中が破ってくれて、結局我が第2中学が若宮中に決勝で勝って、常に優勝をとげさせていただいたという次第です。さて、その後第2中学や若宮中からの当時のメンバーがそっくり三高へ入学して、また他の燕市や下田や白根、はたまた新潟、柏崎あたりからも越境入学して来て優秀なメンバーがズラリと揃ったものです。さて入学はしたものの、当時は上下関係が厳しくて封建社会そのものでした。雑用から始まって、口のきき方、あいさつの仕方、プレー上のマナーにいたるまで先輩に厳しく指導されたものです。練習で辛かった思い出はかずかずあります。私は合宿でつらくて度々家に逃げ帰り、また引き戻されるという事をくり返していました。でも、結局体力があるとかないとかの問題よりもバスケットをやりたいと思う人間しか残れない練習だったのです。こうして三年の最後には、本当に好きな者だけ5人のメンバーが残っていました。結果的にこの当時の厳しさが今にもつながっています。社会に出てからも先輩に対して、あるいは年上の人に対してどういう言葉遣いをしなければならないのか、社会人のマナーを最低限身につける事ができました。自分自身の成長はこの頃のバスケット部の体験が大きいし、人間的に成長できたのもそのお陰だと思っています。とにかく厳しかったのです。でも、そのおかげであれ以上苦しい事は無いいろいろな意味ですごい経験をさせてもらいました。その当時のコーチは中村京治氏という

方ですが（のちにスポーツ功労賞等々を何度も受賞された方ですが）そのコーチは技術面だけでなく精神的な教育をなされる方で「根性」「努力」はあたりまえで、それ以上もっと鍛しくという意味で「臥薪嘗胆」という言葉と申しますか、ことわざを常に教えられました。「臥薪嘗胆」という意味は中国の故事にありますが「自らを苦しみの中に置いて自らを鍛える事」とあります。私は今でも苦しい事や悔みに出くわすと口の中で「がしんしょうたん」「がしんしょうたん」「……」と何回もつぶやいてお題目やら呪文のようになえてのり切ってまいりました。今でも自分自身の座右の銘としてきもに銘じております。さてバスケットボールの話はまだまだ大学のことやらエピソードやらユニークな体験がいくつかありますが、その中のいくつかをかいつまんで具体的にお話したいと思います。大学への入学は最初立教へ入学したいと考えていたのです。それは我々の先輩である金川さんや横山さんといったオリンピック選手が当時在学しておられたし、かの有名なスーパースター長島茂雄氏がいた大学へ入りたいな－なんてばく然と考えていたのですが、結局コーチの母校である明治大学へ入学という運びになりました。明治大学では商学部か文学部へ入りたいと思っていたのですが、一番最初に法学部の試験があり、とにかく受けられる試験は皆受けなさいという事で最初の法学部が一発で合格になってしまい結局法学部に入学という何かやり切れない気持ちで入学になりました。まあでも、明治大学は法学部が創始学部だったのでから文句も言えませんが、さて入学してからは、明大前の和泉校舎で一二年生が、三四年生は駿河校舎と別れておりましたが練習は和泉校舎の体育館で合同で行われました。さすがに大学の一流トッププレイヤーが勢揃いとあって当時私は182cmくらいの身長で高校ではセンターとしてプレイしていましたが、大学へ入ってからは190cm以上の選手がずらりと揃っていました。それもそのはず、オリンピック候補の江川、角田、児玉といった名選手がレベルの高いレギュラー争いをしていたので、私は結局オールラウンドプレイヤーとしてフォワードやガードもこなさなければならず大変苦労いたしました。当時明大は大学リーグでは常にトップ争いの上位で、社会人も加えた全日本トーナメントでも上位にいたチームでしたので、非常にチーム内でのレギュラー争いはハイレベルで部員は総数50名位でしたか全国から優秀な連中が集っているものですから、一軍二軍三軍と別れて練習させられました。幸い私は一軍で参加させていただきましたが、その中でも今でいういじめがあったんです。全国から集った中でも三条高校出身というで一置かれコーチやマネージャーからはかわいがられた存在だったのですが、いかんせん上級生や同輩からは変なねたみの目でみられ大変苦労いたしました。またその年は三高から私を含めて3人が明治のバスケット部へ入部したのですが、三高生は皆合宿所へ入るようにとの事で他に下宿先を決めていたのですがそちらへお世話になる事になりましたが、その合宿所がくせもので、12～13部屋あったのですが6畳くらいの各部屋に1年生、2年生、3年生、4年生が相部屋させられていたのです。朝は1年生は起床の合図を6時に必ず各部屋へ声をかける事、夜は上級生全員が帰って来るまでは炊事当番という事で起きて待っていなければなりませんでした。ところがある日、入部して1か月位でしたか疲れもピークに達していたものですから当番の1人がその日たまたま上級生が酒を飲んで帰って来て午前2時過ぎに帰還されたのですが